

老健施設でも減薬推進

マンパワー不足、工夫で補う

老年薬学会で報告

薬剤師のマンパワーが不足している介護老人保健施設でも、薬剤師の様々な取り組みや工夫によって入所者の減薬を達成できることが、11〜12日に名古屋市内で開かれた日本老年薬学会学術大会のシンポジウムで強調された。入所前に服用薬を把握して評価し、入所時にすぐ減薬を医師に提案できる体制を構築したり、医師の回診に同行して減薬を促している事例などが示された。

老健施設には医師が常駐してきていないケースが多いため、減薬や医薬品の切り替えを進めやすい環境にある。しかし、老健施設の薬剤師配置基準は法律で入所者300人当たり1人と規定されており、入所者数100人程度の老健施設では常勤薬剤師を設置

できている早い乙女彩子氏(常磐)は、「入所する前に、入所前薬剤調査表を作成し、それをもとに処方提案や処方見直しを行っている」と工夫を語った。

入所前薬剤調査表は、入所前の内服薬、薬剤師の処方提案、医師の指示を一覧表にまとめたもの。相談員

が現在の内服薬を記載し、薬剤師がそれに基づき医師への処方提案を記載。提案をもとに医師が継続、中止、頓用の指示を記載し、入所後の薬物療法計画として活用している。

の切り替えを提案することが多いという。昨年4月から12月までの新規入所者61人中、対象者48人に薬剤師が介入した結果、薬剤数は入所前の平均



各施設の薬剤師が取り組みを紹介した

7・0剤から入所後には4・1剤に減少した。6剤以上服用していた入所者は全体の60・4%を占めていたが、介入後は33・3%

削減できた額は半年間で約140万円に達する」とした。一方、小澤洋子氏(医療法人医誠会)は、老健施設への専任薬剤師配置の取り組みを報告した。医誠会は14年から、グループ内老健施設への専任薬剤師の配置を開始。現在は薬剤師5人で、6施設計722床を担当している。

各施設で、医師や看護師と連携する体制を整備したり、薬剤の使用状況を可視化するシステムを作ったりして、減薬を推進。6剤以下の利用者を90%以上にす

るという数値目標を掲げ、2年間で達成した。その中には5剤以下の入所者を85%以上にするという目標を設定し、現在5施設が達成している。こうした取り組みの結果、14年度に4575万円

削減できた額は半年間で約140万円に達する」とした。一方、小澤洋子氏(医療法人医誠会)は、老健施設への専任薬剤師配置の取り組みを報告した。医誠会は14年から、グループ内老健施設への専任薬剤師の配置を開始。現在は薬剤師5人で、6施設計722床を担当している。

各施設で、医師や看護師と連携する体制を整備したり、薬剤の使用状況を可視化するシステムを作ったりして、減薬を推進。6剤以下の利用者を90%以上にす

るという数値目標を掲げ、2年間で達成した。その中には5剤以下の入所者を85%以上にするという目標を設定し、現在5施設が達成している。こうした取り組みの結果、14年度に4575万円

削減できた額は半年間で約140万円に達する」とした。一方、小澤洋子氏(医療法人医誠会)は、老健施設への専任薬剤師配置の取り組みを報告した。医誠会は14年から、グループ内老健施設への専任薬剤師の配置を開始。現在は薬剤師5人で、6施設計722床を担当している。

各施設で、医師や看護師と連携する体制を整備したり、薬剤の使用状況を可視化するシステムを作ったりして、減薬を推進。6剤以下の利用者を90%以上にす

るという数値目標を掲げ、2年間で達成した。その中には5剤以下の入所者を85%以上にするという目標を設定し、現在5施設が達成している。こうした取り組みの結果、14年度に4575万円

削減できた額は半年間で約140万円に達する」とした。一方、小澤洋子氏(医療法人医誠会)は、老健施設への専任薬剤師配置の取り組みを報告した。医誠会は14年から、グループ内老健施設への専任薬剤師の配置を開始。現在は薬剤師5人で、6施設計722床を担当している。

各施設で、医師や看護師と連携する体制を整備したり、薬剤の使用状況を可視化するシステムを作ったりして、減薬を推進。6剤以下の利用者を90%以上にす

るという数値目標を掲げ、2年間で達成した。その中には5剤以下の入所者を85%以上にするという目標を設定し、現在5施設が達成している。こうした取り組みの結果、14年度に4575万円